戀川春町作
歌川國安画
特
へ遠13
1970

戯作者たる世、嬉しきものあらじ。証賃もなき無益語をつき、浮名を共
四方に知らまほしかれど、心に欲しくても、せられぬ事の作てなれば胸の鬱気を散ずるすべ外
なし。されば僕ごとき拙作者も原来師匠のお蔭なれど此頃もようく大
江戸へ出ておりくゝ捻んで居る事。偽とも思ふ。本箱も道具もいざこそ矢
立二丁紙四枚あるそこらの片隅であのぢゝ書誌せばいつゝの一郎のさうゝ六
ゝの名抑谷我主の二筋道、拙作の志情をかたるまでに人の能知る名紙、是八嫖客の
一筋の凝りつまりゝ意解に孝行貴ぶ変る浮世、是八吉ちゃん不安ものも面白ろくぬい
ヤ乃至。其上百月の庭のすゝき枕も判らぬ急作也。此頃見たるの雪光景乃ち見
不ず隣家に今夜の秋景の一筋乃ち理ふかるべきも是れば市辨判をと預りても門雀
方もあり。やまゝや隅田川の茶屋川。伝ぶかぐや向川夜船の拙なる物語ふるむ

油街仙鶴堂舗面ふちのさく

孟陽發兌

熟田　笠亭仙果識

京都六條
三筋町
娼家
雁金屋内
糸女

京都松原通
造酒屋
菊酒屋
女
阿菊

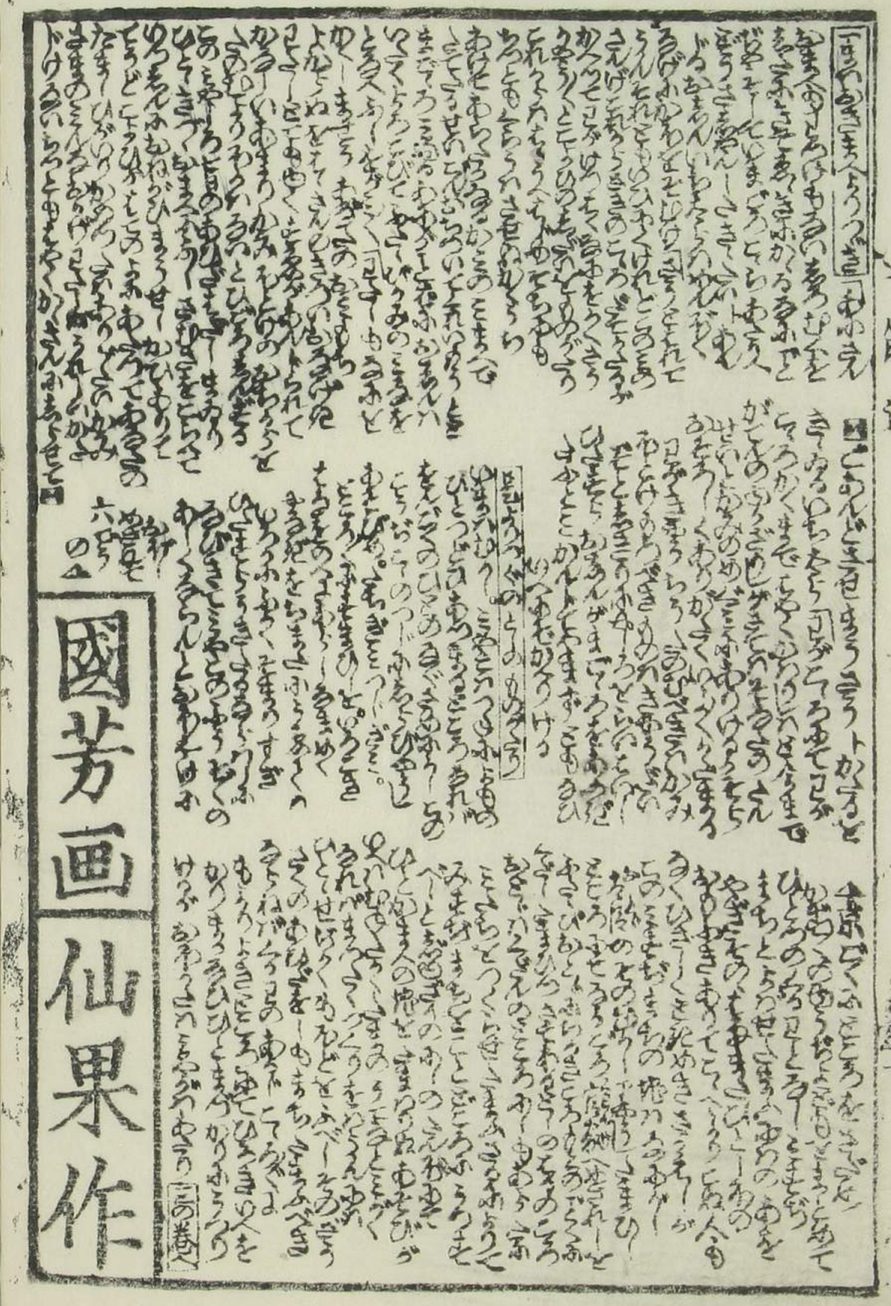
同長者町
金物問屋
三國屋
市太郎
後ふまさや
醴屋茶助

菊酒屋
主管
定七

孝助妹
於信
息
松
寿
桶屋丹
よし

京洛
鴨川西岸
青楼喬居
光景

國芳画　仙果作



紐子立波濡れ衣

新版

春通油町
鶴喜版

後

美七が
あきく
かろ
ゆと
こそ
ゆろ
ところ

三國一
御膳酒

つぎ
左

左

左

「つぎ」これまろさくせんげんぢさろと
こゝのろまのPやくろうんとこゝのーろを
ざうごんーとぢのろまいおくぢろのかろいわ
をきろてのろきろめまむようろぢようきと
ろきろろてせんまんわんもさうえけろとを
○あきくもろはあもろりとようくろんやようあまろ
とをろうはふろんいさーこれちぐどもさわめいぢーき
うあろりとろとをきよわゆもいせとれもろやとの
まんろうゆをろりきろけるゆきーろくさく

○ぶまこぶまろうまめを
ろろくーくもろろ
仙女香のひさをーろう
○さのよわさと
ヨろくもろろ
美玉香のちろろろろ
あれさもふいろくせのく
ゆさをもさもどぞんどの
ゆもろーあれろ所
三丁目西側中ねぢこさろろふ
さろゆる以ん氏ろれいふまゆを色合びめ
ぶもろろ　まもくゆさんゆ用のねぢと
ひれぶひあぶこそまろくりは

勇齋國芳画

楽亭仙果作

淨書千形道友